

届け 世界の果てまでも

令和3年 1月12日

No. 57

文責 校長 飯久保一男

1月より、また、タイトルをマイナーチェンジしました。
日本第2位の高峰「北岳」(南アルプス)

北岳…南アルプス市が誇る日本2位の高峰。非火山としては、日本最高峰！



新しい年もよろしくお願ひいたします

小笠原小学校の子どもたちと、
子どもたちに関わる全ての方々にとって、
本年が素晴らしい年となりますようお祈り申し上げます。



3学期始業式での校長の話の概要です。

あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひします。

…感染症が冬休み前よりも広がっていること、学校でも2学期以上に対策をしていくこと、各自でも対策をすることを話しました。

3学期が始まりました。3学期は、学年によって少し違いますが、学校に来る日は、50日ほどです。短い学期になりますので、これまで以上に、1日1日を大切に、全校の皆さんの、いろいろなカッコイ姿が見られる3学期にしてほしいと思います。

どの学年の人にもがんばってほしい大切な学期ですが、6年生と4・5年生にとっては特に大切な学期になると思います。6年生は卒業に向けて小学校でのすべての生活のしめくくりの学期です。卒業への取り組みは始まっていると思いますが、卒業式が素晴らしい最後の授業となるよう期待をしています。

4・5年生は、児童会選挙を終えて、学校の中心として取り組み始める学期になります。特に5年生は、6年生からバトンを引き継ぎ、最高学年となるための最後の準備期間になります。4・5年生、そして、6年生のカッコイ姿をたくさん見せてもらいたいと思っています。もちろん、1～3年生のカッコイ姿もたくさん見せてほしいと思っています。

今回も怪獣を紹介します。出会ってほしい怪獣です。

最初はいつも紹介している【カッコイ】です。2学期までに身につけた力を3学期にさらに伸ばすことができる、カッコイ学期にしましょう。そして、今年1年が皆さんにとって素晴らしい1年になるようにしましょう。素晴らしい1年にするのは、誰の力でしょうか。そうです。自分の力でがんばることです。自分の力でがんばる人を私はカッコイと思います

次も出会ってほしい怪獣【モクヒョウ】です。今年1年の目標を決めてありますか。決めてあるという人は、その目標に向かって努力してください。まだ決めていないという人は、早めに必ず決めてください。そしてその目標に向かって、明日からではなく、今から取り組み始められるものは始めてください。それ以外にも、1月中にやり遂げたい目標とか、その日その日の目標など、自分で目標をつくって過ごす習慣がつけられるといいなあと思います。

繰り返しますが、短い3学期です。1日1日を大切に、カッコイ3学期にしましょう。

…別の話として、PTA会費で購入していただいた「パトロールベスト」の話もしました。別紙を参照してください。



雪が降りました。

朝起きて窓の外を見ると、外は真っ白、40cmぐらいの雪が積もっています。

ああ、この雪道を通勤するのかと、少し憂鬱な気分で家を出ました。

すと思った通り、道はつつる、車も列を作ってノロノロと動いています。

「えっ、あぶないな。」

そんなとき、一つの光景が目飛び込んできました。

歩道に積もった雪を避けているのですが、小学生の集団が、車道を歩いているのです。

横を通る車も、恐る恐るスピードを緩めながら通り過ぎている様子が伝わってきました。

わたしは、反対車線を通っていたのですが、

「気持ちは分かるけど、ちょっと考えて歩いたほうがいいんじゃないかな。」

と、通勤の遅れのイライラも加わって、

その小学生の集団の様子に少し憤慨しながら、その場を通り過ぎました。

そして、その日の夕方、仕事からの帰り道、

朝のそんな光景もすっかり忘れて、車を運転していたときの事です。

一人の男の人が、歩道で何かしています。

よく見ると、スコップを持って、雪をかいているようです。

そのとき、ハッと気づきました。

その場所は、今朝、小学生の集団が、車道を歩いていた道なのです。

きっと、その男の人、今朝、その光景を見たのでしょう。

しかし、それを冷たく見るのではなく、

この人は、「この小学生たちのために何とかしなければ…」と考えたのでしょう。

よく見ると、雪の歩道に、一本の道が、延々と続いています。

この道を作るために、この人は、何時間、雪をかき続けたのでしょうか。

寒い北風の吹く冬の夕暮れの中で、何を考えながら、雪をかき続けたのでしょうか。

明日の朝、驚きの表情を浮かべながら、笑顔でこの一本の道を通るであろう

小学生の子どもたちを思い浮かべた時、何か胸が熱くなるものを感じ、

バックミラーに映る、真っ赤な顔で汗をかきながら雪をかく男の人を、

私は見えなくなるまで見続けました。

「子どもに伝えたい『心に響くちょっといい話』より

